



好奇心を育む

河仲 準二[†]

Arouse Your Curiosity

Junji KAWANAKA[†]

本年度よりレーザー学会の総務幹事長を仰せつかったからだと思いますがレーザーコンパスに寄稿させていただく榮譽となりました。そうは言っても、私はレーザーについてそんなに深い造詣を持っておりませんのでもう少し人選した方がよいのではと思います。一旦はお断りしましたが、メール処理の苦手な私に事務局が口頭で再確認されたときにはお願いメールから既に2ヶ月近くも経っており「できません」と言えない状況となっていました。やがてくる非難を想像しつつ筆をとることになりました。纏まりが無く、レーザーともあまり関係ありません。本当に「なんでもいいから」という内容となってしまった上に、仰々しい題目となりました。読者の皆様、申し訳ありません。

大学卒業後、大学院を受験し直して学部時代にお世話になった研究室でロボット工学をもう一度とっていた私が、研究室の定員オーバーで別の研究室に拾っていただくことになった。レーザー研究やレーザー応用をやっている研究室だった。レーザーをやりたいという人からすると動機なしという不届き者だったが、適当に過ごした大学4年間を後悔していた私はなんでもいいからとにかく勉強したいという気持ちが強かった。テーマは何でもよかった。与えられたHeNeレーザーを夢中でいじっていると、そのうち、分光学に興味が出てきて博士課程に行きたいと思うようになった。ここだと思った大学院にたまたま受かりレーザー冷却に出会って初めて研究というものを実感した。その後も大学や研究所を転々とした。テーマは行く先々で全く変わった。レーザー光源の研究開発が長かったためか周りの方々には私はレーザー屋として認識されているが、本人はその意識が薄い。不勉強ゆえの分野が得意とも言えない。それでも、これまでそれなりにやってこれたのは、面白みを見つける技が上手だったのだろうと憶測する。さて、この技を持っている人をお見かけした時にいろいろと話を聞いてみるといくつか共通点がある。小さい頃から好奇心旺盛で、ものづくりをしたり既製品を改造したり、それでもって競ったりと子供時代の絶大なエネルギーをそこに費やした。自然に、人とはなにかしら異なる、特徴あるものを求めるようになった。これは現在も変わっておらず、レーザーを開発する時に心がけていることが3つある。なにがしか有用な性能で一番であること、その有用な性能を引き出すために独自の仕掛けが入っていること、開発する装置は格好良くなければならないこと。格好良い装置は別として、独自に考えた面白い仕掛けのある装置で一番の性能をだすのは極上の楽しみであり実現した時の充実感は何事にも勝ると感じている研究者や開発者はいらっしやるかと思う。私が学生の頃、尊敬する恩師が「新しい発見をしたその時その瞬間、知っているのは世界中で自分だけだ」ところが研究者の醍醐味だよ。」とおっしゃっていたのを思い出す。こういう経験の積み重ねがいろいろなことへ挑戦する気持ちを育む。

何事も初めてやることに困難はつきものだ。子供の時はすべてが初めての体験だったが、面白いことに飢えていたから二の足を踏むことがなかった。最近、某局の朝ドラの主人公がある物語に出てくる少女の言葉を紹介していた。同感した。「人生はまっすぐで見渡せると思っていた。あるとき、(予想に反して)曲がり角があった。でも、私はその先にはきっとすばらしいことがあると思うの。」それまでの成功体験や好奇心が、少女に曲がり角を曲がらせるのである。

時に、「今の学生は…」ということをよく耳にするし、自分でも同じように思うことがある。同時に、自分の未熟さを感じることもある。これからの日本は大丈夫だろうか？ ついつい落ち込む。でも、いつの時代も同じだったはずと思い直す。たまたま出会ったレーザーは、20年強の間、大なり小なり波はあったが私に好奇心を持たせ充実させてくれた。落ち込んではいられない。時代は移り変わり行くが曲がり角を進んで行く希望を与える世の中でありたい。

[†] 大阪大学 レーザーエネルギー学研究中心 (〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-6)

[†] Institute of Laser Engineering, Osaka University 2-6 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871